

本当の便利とは何だろう。

白鷗中学校 三年 榎本 圭道

みなさんは普段、便利なものを使っているだろうか。便利なものといえば、近年手離すことができなくなっているスマートフォンなどのICTやAIを思い浮かべる人が多いだろう。しかしそんなAIは、便利を超えて人々に悪影響を与え始めてしまっているのである。いったいどのような悪影響が出てしまっているのだろうか。

まず、代表例としてAI失業というものがある。AI失業とは、AIなどの機械が人に代わって仕事をこなすようになり、仕事が奪われてしまうことである。

この現象が起こるのは、まだ先の話だろうと思われる人も多いと思うが、もうすでに発生してしまっているのである。

アメリカでは、テキスト生成AIによって映画の脚本が作成された。それによって、AIに仕事を奪われることを恐れた脚本家がデモを起したり、俳優も同じことを恐れてストライキを起したりしているのだ。この影響で有名俳優の来日が中止になったり、さらには映画の出演を拒否してしまったりと、国内では物議をかもしている。

そんな事態が起こっている一方で、「仕事やビジネスは、時代に沿って変わっていくのだから仕方がないことだ。」という意見も出ているが、果たしてそれは本当に仕方がないことなのだろうか。

実際にここ八十年間で生まれた仕事のうち、八十五パーセントは新たな事業だとも言われていて、少しずつビジネスの形が変わっていることが分かる。しかし、このまま変わりすぎてしまうと、ますますAIに仕事を奪われて失業者が増加してしまうのではないだろうか。つまり、AI失業は必然的で仕方がないことでありながらも、より良い未来にいくために向き合わなければならない重要な問題なのである。

では、私たち人間はどのようにAIと関わっていくべきなのだろうか。
結論から言うと、適度に使うことが大切なのではないかと私は考えている。例えば、人手不足でアルバイトの募集を呼びかけても人が集まらない場合、この場合は、AIやロボットを導入すると、業務が回るようになり、人手不足を解消することができ、会社としては助かる。

しかし逆に、人手が足りていて、そこに就職を希望する人が多い職場に多くのAIを取り入れる必要は無いのである。作業の効率を良くするためにAIやロボットを導入することは会社にとって良い結果に繋がることが多い。だが、必要以上にAIを取り入れ、退職者を出

する必要は無い。人件費の削減にはなるものの、AIは人間ほど優れてはいないことを忘れてはならないのだ。実際にとあるカウンセリングAIが相談者に自殺を促してしまった事例があり、その会社はAIの取り入れを中止したそうだ。

AIは画期的なものであり、私たちの生活を便利で豊かにしてくれるものである。しかし、私たちは便利を求めすぎて必要以上にAIを使いすぎてしまった。その結果、悪影響をもたらすようになってしまったのだ。

これからの私たちは、AIを必要とする場面では必要な分だけAIを活用させ、必要以上にAIを使わないようにするべきだ。そのようにすれば、AI失業を減らしながら、より豊かで便利な社会にすることができるとは思えないだろうか。